

● 指導のポイント

学校教育目標

自立と共生の力をもち、心豊かでたくましく生きる生徒を育成する
～「あたりまえのことが本気でできる」チーム口和中学校～

めざす生徒像

- 【凡事徹底】 あたりまえのことが本気でできる生徒
- 【思いやり】 豊かな心をもち、仲間を大切にする生徒
- 【主体性】 向上心をもち、主体的な学びに向かう意欲ある生徒
- 【表現力】 コミュニケーション能力をもち、協働する生徒

研究主題

「自他を尊重し、仲間と共によりよく生きようとする生徒の育成」
～対話により考えを深める道徳科の授業づくりを通して～

道徳科と他教科等との有機的な関連（情報モラル）

- 【全 学 年】・情報機器通信会社によるケータイ・スマホ安全教室の実施
- 【第2学年】・国語科「話し言葉と書き言葉」・技術科「情報モラルとコンピュータの利用」
・英語科「What Can We Do for Others?」

対話により考えを深める道徳科の授業づくり

① 主体的に考えたいくなる発問と工夫（自分とつなぐ対話）【課題設定・自分事】

- ・導入で自分自身の経験について話をしたり、学校行事等の写真を提示したり、自分ならどうするかという判断等を迫ったりすることで、自分事として考えさせる。
- ・「なぜだろう？」と考えたいくなる課題やめあての設定をすることで、課題意識をもたせる導入を行う。
- ・友達の意見とのズレや広がりのある中心発問を行うことで、主体的に考えさせる。
- ・振り返りでは、自分自身と対話し、授業を通して改めて価値について見つめ直す。また、全生徒の振り返りを載せた道徳通信「まなざし」を発行し、他者の考えに気づき、広げる機会を作ると共に、関連ある写真等も掲載し、内容項目と実生活を結び付ける。

② 生徒同士の考えや思いをつなぐ工夫（他者とつなぐ対話）【可視化】

- ・生徒がグループ協議のコーディネーターとなり、発言の少ない生徒の意見を引き出したり、視点を変えた発問をしたりすることで、思考を深めさせたりする。
- ・基本的にコの字の座席にすることで、互いに顔を見て話をしやすくする。また、グループ活動を行うことで、一人一人が自分の意見を相手に伝えることができるようにする。
- ・ネームプレートや顔プレートにより生徒の考えを可視化することで、お互いの意見が分かるようにする。

③ 自分の考えをさらに深める発問と工夫（補助発問の活用）【補助発問・価値に迫る】

- ・事前協議の際、「主題解釈と教材解釈」シートを活用して教材分析を行い、主題を焦点化することで発問を精選し、考えを深めることができるようにする。
- ・中心発問後に、多面的、多角的な補助発問をすることで思考を深める。